

- 第一號(十一月一日附)第三年度大會並に第一回中央委員會報告に關する件
- 第二號(二月十四日附)組合會議時報第二號に關する件及、第三回大會代議員記念メタルの件
- 第三號(四月八日附)メーデーパンフレットの件、メーデーポスターの件、全勞新聞メーデー號の件、メーデー闘争報告の件
- 第四號(四月十三日附)全國勞働本部會計印鑑制定の件
- 第五號(五月一日附)情報相互交換に關する件
- 第六號(五月一日附)全國勞働會旗統一に關する件
- 第七號(六月二十七日附)兵庫縣消費組合内紛問題に關する特別指令の件
- 第八號(八月五日附)第三回中央委員會決定事項報告に關する件
- 第九號(八月二十六日附)全國大會報告並に議案締切嚴守に關する件

其他

檄(六月一日附)全國勞働創立三週年に檄す

三、各部活動報告

10(1) 争議部

(イ) 争議の一般的傾向

昭和七年下半年期から本年上半期にかけて、インフレの影響は、漸く争議の上に反映し始め、組合の争議活動は活氣を呈し始めた。いま、これを争議件数と参加人員との關係によつて観ると、左表(社會局調)に現はれてゐる如くである。

年 度	争議件数		参加人員	
	上半期	一年間	上半期	一年間
大正十五年	四六六	一,三三〇	五五,三三三	一七〇,三三三
昭和 一 年	一,〇三〇	三,〇三〇	一〇四,三三三	三〇〇,三三三
同 二 年	一,〇三〇	三,〇三〇	一〇四,三三三	三〇〇,三三三
同 三 年	一,〇三〇	三,〇三〇	一〇四,三三三	三〇〇,三三三
同 四 年	一,〇三〇	三,〇三〇	一〇四,三三三	三〇〇,三三三
同 五 年	一,〇三〇	三,〇三〇	一〇四,三三三	三〇〇,三三三
同 六 年	一,〇三〇	三,〇三〇	一〇四,三三三	三〇〇,三三三
同 七 年	一,〇三〇	三,〇三〇	一〇四,三三三	三〇〇,三三三
同 八 年	一,〇三〇	三,〇三〇	一〇四,三三三	三〇〇,三三三

即ち、本年上半期の争議件数は八四三件で件数の上では、一昨六年同期の一、〇七九件、昨七年同期の九四四件に比すれば、漸減の傾きを示してゐる。所が、この件数は、一面昭

和四年世界恐慌が始まつて以來の、我國に於ける争議激増段階が持續してゐることを物語るものである。

この争議の漸減の傾向に依つて來る原因は、一つには、一昨年滿洲事變以來の軍事インフレによる若手の活況があり、二つには、所謂非常時も宣傳とファウショの氣運による資本家の重暁がある。しかし、これらの原因によつて、今後共、争議が漸減の傾向を持續するとは限らない。却つて、勞働大衆は、一つには、軍事インフレ強行、物價暴上により受ける勞働強化、實質賃銀の切下げに耐え切れなくなり、二つには「非常時」とファウショの重暁に批判的になつて、争議激増の傾向に轉ずることが豫想される。更に當然來るべきインフレの被縛とその結果としての經濟界の混亂を考へれば、争議漸減は一時的傾向であつて、寧ろ今日の段階は、世界恐慌過程に於ける争議の激増の一般的傾向にあり、その傾向の上にあつての消長に過ぎない。従つて、勞働組合の争議闘争は、日常闘争の主要部分を占めるものであることを再認識するを要す。

(ロ) 争議の眞的轉換

争議の件数上に於ける消長の外に(一)参加人員、争議の規模の増大の傾向と(二)要求に現はれた争議の性質が積極的になつた點は本年度争議の特徴である。(一)に就いては、前掲表に明かであるが、(二)に就いては、次の争議原因別長(社